

御製 三首 平成二十六年

神宮参拝

あまたなる人らの支へ思ひつつ白木の冴ゆる新宮にひみやに詣づ

来たる年が原子爆弾による被災より七十年経つを思ひて

爆心地の碑に白菊を供へたり忘れざらめや往いにし彼かの日を

広島市の被災地を訪れて

いかばかり水流は強くありしならむ木々なぎ倒されし一すぢの道

御製 三首 平成二十六年

神宮参拝

あまたなる人らの支へ思ひつつ白木の冴ゆる新宮に詣づ

天皇皇后両陛下は、本年三月、昨年式年遷宮を終えた神宮を御参拝になった。この御製は、御参拝に際しお感じになった式年遷宮に尽力した多くの人々への感謝のお気持ちを詠みになったもの。

来たる年が原子爆弾による被災より七十年経つを思ひて

爆心地の碑に白菊を供へたり忘れざらめや往にし彼の日を

天皇皇后両陛下は、本年十月、第六十九回国民体育大会御臨場等のための長崎県行幸啓の折、原子爆弾の爆心地に建立された碑に御供花になった。この御製は、来年が原爆による被災から七十年を迎える節目の年であることに思いを致され、原爆の惨禍を忘れてはならないとお気持ちを込めて御供花になったことをお詠みになったもの。

広島市の被災地を訪れて

いかばかり水流は強くありしならむ木々なぎ倒されし一すぢの道

天皇皇后両陛下は、本年十二月、同年八月に発生した豪雨災害による被災地お見舞い等のため広島県を御訪問になった。この御製は、広島市安佐南区の被災現場を御視察になり、甚大な被害をもたらした水の流れのすさまじさをお感じになってお詠みになったもの。

第六十五回全国植樹祭

新潟県

十年前地震襲ひたる地を訪ねぶなの苗植う人らと共に

第六十九回国民体育大会

長崎県

台風の近づきて来る競技場入り来たる選手の姿たのもし

第三十四回全国豊かな海づくり大会

奈良県

若きあまごと卵もつあゆを放ちけり山間深き青き湖辺に

皇后陛下御歌

三首

平成二十六年

ソチ五輪

「己^{おの}が日」を持ち得ざりしも数^{あまた}多ありてソチ・オリンピック後半に入る

宜仁親王薨去

み歎きはいかなりしならむ父宮は皇子^{みこ}の御肩^{おんかた}に触れまししとふ

学童疎開船対馬丸

我もまた近き齡^{よはひ}にありしかば沁^しみて悲しく対馬丸思ふ

皇后陛下御歌

三首

平成二十六年

ソチ五輪

「己^{おの}が日」を持ち得^あざりしも数^{あまた}多ありてソチ・オリンピック後半に入る

本年二月、ロシア連邦のソチにおいて開催されたオリンピック冬季競技大会で、オリンピックを「自分の日」にはできず敗れ去っていった多くの選手たちの様子を目にされての御歌。

宜仁親王薨去

み歎きはいかなりしならむ父宮は皇子^みの御肩^{おんかた}に触れまししとふ

宜仁親王殿下には、本年六月八日、薨去された。この御歌は、御舟入（一般の納棺に当たる儀式）の際に三笠宮殿下が宜仁親王殿下のお肩にお触れになったことをお聞きになり、御子若宮をお失いになった三笠宮殿下の深いお悲しみをお思いになってお詠みになったもの。

学童疎開船対馬丸^{つしままる}

我もまた近き^{よほひ}齡にありしかば沁^しみて悲しく対馬丸思ふ

本年六月、天皇后陛下は、先の大戦で撃沈された学童疎開船「対馬丸」の犠牲者慰霊のため、沖縄県を御訪問になった。対馬丸の犠牲者の多くが御自身と同じ年代の子どもたちであったことをとりわけ悲しくお感じになりお詠みになっている。